



RRCJ

The Resilience Research Council of Japan

一般社団法人レジリエンス協会 メールマガジン

2016.8.21

(第 20 号)

【 目 次 】

1. 「第 4 期定時会員総会」 報告
(2016 年 6 月 22 日開催)
2. 「第 2 1 回 定例会」ダイジェスト報告
(2016 年 6 月 22 日開催)
3. 次回「第 2 2 回定例会」開催のご案内
9 月 1 4 日 (水) 13:00~16:50
於 ; 日比谷図書文化館
4. 「レジリエンス認証説明会」8/3 開催報告と予定
次回開催は 9 月 9 日(金)、10 月 18 日 (火)
同内容にて開催予定
5. 会員募集のご案内



(日比谷図書文化館からの眺望：日比谷公園)

【 1. 第 4 期定時会員総会；報告】

日 時：2016 年 6 月 22 日 (水) 11:00~11:40

場 所：日比谷図書文化館

出席会員数 (委任状を含む) は、総会員数の 2/3 以上であり、定足数を満たしております。

以下の議案について報告・審議がなされ、それぞれの議案につき満場異議なくこれらが承認・可決されました。

- 第 1 号議案： 第 4 期 (2015 年度) 決算報告と監査報告書に関する件
- 第 2 号議案： 第 4 期 (2015 年度) 事業報告に関する件
- 第 3 号議案： 2016 年度の事業計画と予算に関する件
- 第 4 号議案： 理事・監事の改選に関する件 (新任理事、退任理事各 1 名)



← 議案説明の役員 (右から)

田中弘明 監事

黄野吉博 代表理事

田中和明 常務理事

➡ 会員総会議事録はレジリエンス協会HPに掲載しております。

2016 年度 (第 5 期) も引き続き、定例会の定期開催、各研究会の活動推進、「レジリエンス認証制度」の普及・啓発への協力等積極的に活動してまいります。皆様の変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げます。

【2. 第21回 定例会；ダイジェスト報告】

日 時：2016年6月22日（水） 13:00～16:40

場 所：日比谷図書文化館

参加者数：35名（講演者を含む）

当日の講演に使用した資料は非公開のものを除き、講演者様のご協力によりレジリエンス協会HP内の「定例会」ページに掲載させていただいております（一部ないし割愛版を含む）。

https://resiliencej.wordpress.com/mtg_history/

<定例会内容>

(1) 13:00～13:40 『会長講話』

林 春男 氏（防災科学技術研究所、当協会会長）

- 緊急報告として、今回の熊本地震災害の2ヶ月と題し、防災科学技術研究所の取り組みを中心にお話いただきました。



(2) 13:40～14:20 『スマート&レジリエントな都市づくり』～都市の高温化リスクの観点から～

増田幸宏 氏（芝浦工業大学、当協会副会長）

〔講演者抄録〕

- 都市環境のレジリエンスを考える上では、環境維持の対応力を如何に備えるのかという視点が重要となる。造船工学においては、船が傾いても転覆せずに直立状態に戻ろうとする「復原力」の確保が設計上の重要なポイントとなる。
- 同じように、都市環境のレジリエンスでは、環境や気候の変動に対して、適切な状態を維持するために、都市がどのような調節機能を持ち得るのかということが重要であり、自然資本の活用と都市システムとの組み合わせによって多様な形の環境容量を確保することがその鍵となる。
- これからの都市づくりにおいては、自然的要素（風・水・緑・土等）、人工的要素（施設や設備）、空間的資源（公共的空間や民有地）を組み合わせることで、地域における環境性能の維持・向上機能を担う新しい都市の環境基盤を構築していく必要がある。



※当日の講演レジメは以下の通り。

<レジメ>

「スマート&レジリエントな都市づくり」 ～都市の高温化リスクの観点から～

芝浦工業大学 増田幸宏

1. 巨大システム・人工物としての都市
その計画・設計、制御、維持・管理 (Built Environment)
2. なぜ都市が高温化するのか？
環境をシステムの的に考える
3. 日本学会会議 声明
「生活の質を大切にする大都市政策へのパラダイム転換について」,
4. 都市における資源性の消費と環境汚染
5. 東京の都市環境気候図
6. 皇居・皇居外苑のクールアイランド効果
7. 都市廃熱処理システムの事例紹介
8. ソウル清溪川 (チョンゲチョン) 復元工事
9. 東京における取り組み事例
10. ノーベル経済学賞 (2009)
Elinor Ostrom (エリノア・オストロム) 先生の業績

(3) 14:30～15:10 『システムズ・レジリエンス』 丸山 宏 氏(株式会社 Preferred Networks)

[講演者抄録]



□ 丸山氏の講演の内容は、2015年12月5日～6日に名古屋大学で開催された「第6回横幹連合コンファレンス」での論文内容とほぼ同じということで、丸山氏にはその際の論文「レジリエンスの科学的アプローチ」をご提供いただきました。

※横幹連合 (特定非営利団体 横断型基幹科学技術研究団体連合)

⇒ 以下、論文冒頭部分を掲載させていただきますが、全文はレジ協HPに掲載しておりますので、そちらをご覧ください。

- 生態システム、工学システム、社会システムなど、様々な領域において、擾乱に対して弾力的(レジリエント)であり、生き残るシステムもあれば、生き残ることができずに消えてなくなっていくシステムもある。レジリエントなシステムとそうでないシステムの間にはどのような違いがあるのだろうか？我々は、システムのレジリエンスを科学的に解明するため、情報・システム研究機構の領域横断的研究プロジェクト「システムズ・レジリエンス」を2012年に立ち上げた1. 本稿では、その4年間にわたるプロジェクトにおける主要な成果[1]を概括する。
- 科学の伝統に従って、我々は(1)既存のシステムを観察し、分類することによってその原理的な性質を導くのと共に、(2)レジリエンスに関して数理的なモデルを作り、そのモデルから理論的な性質を導く、という2つのアプローチを取った。本稿では次章で前者の結果として様々なレジリエンスのタクソノミについて述べ、それらに対して有効な戦略を3章で議論する。4章では、それらの知見にもとづいてレジリエンスの理論的なフレームワークを提案しその意味するところについて述べる。

(4) 15:10～15:50 『レジリエンスの評価① ISO22325』

田代邦幸氏（株式会社インターリスク総研）

⇒ 講演の資料は協会HPに掲載しております。

〔講演者抄録〕

- ISO では、組織の緊急事態対応能力を評価するための指針として、ISO 22325 の制定作業が進められている。これには「Guidelines for emergency management capability assessment（組織の緊急事態管理能力アセスメントのための指針）」というタイトルが付けられており、組織の緊急事態対応に必要な 9 つの機能を、それぞれ 4 段階で評価するための指標がまとめられている。
- 本規格では、組織の緊急事態対応に次の 9 つの機能が必要だと考えられており、これらの機能をどのような観点で評価すべきかが、文章で示されている。

- 1) 指導者層と力量
- 2) 資源管理
- 3) 情報通信
- 4) リスクアセスメント
- 5) 危機対応
- 6) 連携と協力
- 7) 緊急事態対応計画
- 8) 演習
- 9) 被害軽減



なお、リスクマネジメントについては ISO31000、危機対応については ISO22320、連携と協力については ISO22320 および 22397、演習については ISO22398 といった関連規格が、評価の拠りどころとして参照されている。

- また本規格は、単に評価指標を示すだけにとどまらず、アセスメントプロセスについても望ましい形を提示しようとしている。アセスメントプロセスは「計画」、「収集」、「分析」、「報告」の 4 段階に分けられており、それぞれの段階で留意すべきことが箇条書きで示されている。これは組織のレジリエンス全体を評価するための規格ではないが、緊急事態対応能力は組織のレジリエンスにおいて重要な位置を占めると考えられるので、本規格が正式に制定され、多くの組織に採用されれば、将来的にはレジリエンス全体の評価方法にも影響を与える可能性が高いと考えられる。

(5) 16:00～16:40 『レジリエンスの評価② 国土強靱化』

槇本純夫氏（SOMPOリスクアマネジメント株式会社）

⇒ 講演の資料は協会HPに掲載しております。

〔講演者抄録〕

- 天災、人災等に伴う破壊的な影響により世界では近年 3 千億ドルを上回る経済被害があった。この中で先進 34 カ国で構成する OECD 加盟国は、災害による死者発生割合を低く抑えていて、概してレジリエントといえるが、日本の災害当たりの死者の割合は高い方である。
- 2005 年ハリケーン・カトリーナを契機に米国は連邦緊急管理庁（FEMA）の役割を強化、200



年の洪水を契機に英国は、河川に関わる法制度を抜本的に改めるなど、災害による破壊的影響を受けて政策を転換した事例がある。

- わが国でも、2011年の東日本大震災の際に政府の縦割り行政により地方が動けなかったことを省みて、災害対策基本法が改訂された。更にそれまでのインフラ整備中心の防災対策から、人命を守り、経済社会への被害が致命的にならず迅速に回復する「強さとしなやかさ」を備えた国土・経済システムの構築（国土強靱化）に転換した。
- 国土強靱化は4つの基本目標を掲げており、その目標に則してPDCAサイクルを回して施策の重点化を図り、毎年アクションプランとして公表されている。また国土強靱化は、ソフトとハードを組み合わせ、平時にも有効に活用できる工夫がなされるとともに、住民や民間企業との連携を重視している。

- この度、レジリエンス認証制度がスタートしたが、この制度は、自治体、大企業はもとより、中小企業、学校、病院等各種の団体における事業継続(BC)の積極的な取り組みを広めることにより、すそ野の広い、社会全体の強靱化を進めることを目的としている。

16:40 閉会

【3. 次回『第21回定例会』開催のご案内】

日 時：2016年 9月14日(水) 13:00 - 16:50

場 所：千代田区立 日比谷図書文化館 小ホール 千代田区日比谷公園1番4号
(大代表) 03-3502-3340

<http://hibiyal.jp/hibiya/access.html>

参加費：会員；無料

一般；3,000円 会費は当日、会場受付でお支払下さい。
(お釣りが無い様をお願いします。)

事前登録のお願い：会員の方も一般の方も、参加する際には事前登録をお願い致しております。
以下のアドレスにお申込み下さい。領収書が必要な方はその旨お知らせください。当日受付でお渡し致します。

申込登録は ⇒ http://www.kokuchpro.com/event/rrcj_201609/

<プログラム>

12:30 - 13:00 — 受付 —

13:00 - 13:40 『会長講話』 林 春男、防災科学技術研究所・レジリエンス協会会長

13:40 - 14:20 『被災時のメンタルヘルスケア』 深谷純子、(株)深谷レジリエンス研究所

14:20 - 14:30 — 休憩 —

14:30 - 16:30 『サイコロジカル・ファーストエイドワークショップ』 サニー神谷
一般社団法人日本防災教育訓練センター 代表

16:30 - 16:40 事務連絡

16:40 閉会

※ プログラムは今後予告なく変更になる場合がありますのでご了承ください。

【4. レジリエンス認証説明会 8/3 開催報告と予定】

□ 「レジリエンス認証」の説明

内閣官房国土強靱化推進室が平成28年2月に制定した「国土強靱化貢献団体の認証に関するガイドライン」に基づき、国土強靱化貢献団体認証（レジリエンス認証）制度が平成28年度よりスタートしました。

本制度は、内閣官房国土強靱化室がガイドラインの規定する「認証組織の要件」に適合していることを確認し、認証組織である一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会が、ガイドラインに基づき審査を行うものです。レジリエンス協会は本制度の普及活動および審査等の協力を行っています。

□ 「レジリエンス認証」の目的

レジリエンス認証は、国土強靱化構想の一環として自治体、大企業はもとより、中小企業、学校、病院等各種の団体における事業継続（BC）のより積極的な取り組みを促進するためのものです。認証は実質的かつ実効を裏付けながら、取り組み易さも配慮したものとなっており、すそ野を広げることにより、社会全体の強靱化を進めることを目的としています。

□ レジリエンス認証の状況

今年度は3回の募集期間を設定しています。1回目（6/30 応募締切）の応募・審査の結果、44団体がみごとに認証取得を果たしています。2回目の応募は9月14日～となっています。

⇒ 認証の内容・認証団体一覧は <http://www.resilience-jp.org/20160729103027/>

□ 前述しましたがレジリエンス協会は「レジリエンス認証」の普及活動の一環として「レジリエンス認証説明会」を開催しております。

〔第1回〕

日時：2016年8月3日（水） 14:00～16:30

場所：日比谷図書文化館 セミナールーム

参加者数：26名（講演者を含む）



（セミナールームが満室になりました。）

<当日のプログラム>

- 14:00～14:30 「レジリエンス認証制度の説明」 荒井富美雄氏（レジリエンス認証制度事務局長）
- 14:30～14:50 「認証団体からの説明①」 谷口元氏（アイシン共聴開発株式会社）
- 14:50～15:10 「認証団体からの説明②」 天野明夫氏（大成建設株式会社）
- 15:10～15:20 休憩
- 15:20～15:40 「レジリエンス認証取得のメリット」 槇本純夫氏（SOMPOリスクマネジメント株式会社）
- 15:40～16:00 「質疑応答」
- 16:00～16:10 休憩
- 16:10～16:30 「これからBCPを構築する場合のポイント」 黄野吉博（レジリエンス協会）

□ 荒井事務局長のレジリエンス認証の概要説明に続き、今回の認証取得団体の2社様から取得に向けての具体的な活動等のお話を聞くことができました。続いて、審査委員である槇本氏から取得のメリットについて、当協会代表理事の黄野から今後応募するためのポイントを詳細にわたり説明を行いました。

□ 参加者アンケートでは、「制度について理解ができた」「取得のポイントがわかった」など、大半の方から参加してよかったとの回答をいただきました。

- 次回の開催は以下です。内容は第一回と同じものを予定しています。
〔第2回〕

日 時：2016年9月9日（金） 14:00～16:30

場 所：日比谷図書文化館 セミナールーム

参加申込は以下からどうぞ。

http://www.kokuchpro.com/event/rrcj_0909/

日 時：2016年10月18日（火） 14:00～16:30

場 所：日比谷図書文化館

参加申込は別途ご案内いたします。

【5. 会員募集のお知らせ】

- ◎ 当協会では会員を募集しております。当協会はレジリエンスに関する情報収集、意見交換の場として各業種、団体等の方々にお気軽に参加いただいている会です。レジリエンスにご興味をお持ちの方は、ぜひ一度定例会に参加いただき、会の活動状況等を実際にご確認いただければと思っています。

（参考）個人会員の年会費は 10,000 円（消費税込）です。年6回程度開催予定の定例会・訓練会等の参加費（1回 3,000 円×6回）が無料となる他、各研究会（チーム）にも自由に参加することができます。

法人会員（100,000 円＋消費税）もあります。

入会申し込み方法につきましては下記リンク先のページをご参照ください。

<https://resiliencej.wordpress.com/aboutus/application/>

※レジリエンス協会のメールマガジンは次の方々にお送りしています。

- ① 当協会の会員および会員から紹介のあった方。
- ② 当協会開催のイベントに、申込み・参加された方でメールアドレスをお知らせ頂いた方。
- ③ 当協会の関係者と名刺交換された方で、レジリエンスにご関心があると思われる方。

※ 当協会のメールマガジンにお心当たりがない場合、また講読を中止する場合は、以下までメールにてお知らせください。登録を解除いたします。

「info@resilience-japan.org」

※ 本メールマガジンに掲載される記事の著作権は、原則として発行元に帰属します。

引用、転載、雑誌掲載いずれの場合も、本メールマガジンのコンテンツを利用される場合は出典を付記するようお願いいたします。

※ 本メールマガジンに関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

発行元：一般社団法人レジリエンス協会

<http://www.resilience-japan.org/>